

生物多様性の保全

事業活動と調和する取り組みを推進しています

基本的な考え方

日本製紙グループの事業活動は、生物多様性を育む森林に対し、大きく依存していると同時にさまざまな影響を与えています。森林を持続可能な形で活用していくことが、事業の存続・発展の基盤です。

当社グループでは「環境憲章」(→P.40)の理念に「生物多様性に配慮した企業活動」を掲げています。さらに2016年4月には、「生物多様性保全に関する基本方針」を制定し、グローバルなサプライチェーンを通じた取り組みを推進しています。

本業を通じて生物多様性の保全に取り組むとともに、自社の資源や技術を活かす活動を進めています。

生物多様性の保全

日本製紙グループの取り組み

本業を通じた取り組み

- 森林の生物多様性を保全
- 生産活動における環境負荷の低減

自社資源や技術を活かす取り組み

- 自社林の活用
- 自社林の独自技術の活用

生物多様性保全に関する基本方針

(2016年4月1日制定)

■ 理念

日本製紙グループは、森林資源を事業基盤とする企業グループとして、生物多様性が生み出す自然の恵みに感謝し、生物多様性の保全を通じて生態系サービスを享受し続けることができる持続可能な循環型社会の構築を目指します。

■ 基本方針

1. 生物多様性の保全を重要な社会課題と位置づけ、生態系サービスの持続可能な利用と事業活動との調和に努めます。
2. 国境を越えた生態系サービスの利用が生物多様性に与える影響をサプライチェーンマネジメントを通じて認識し、その利用を適切に管理します。
3. リサイクルおよび省資源に積極的に取り組むことにより、環境負荷が生物多様性に与える影響の低減に努めます。
4. 生物多様性の保全と生態系サービスの持続可能な利用に貢献する技術、製品、サービスの開発を推進します。
5. 生物多様性に関する社員の意識の向上に努め、ステークホルダーと連携して生物多様性を育む社会づくりに貢献します。

生物多様性保全に関する基本方針

生物多様性調査(国内自社林および海外保護区・保護林)

水辺林など配慮すべき地形情報の確認、森林生態系の定点調査など
例) 海外保護地域での定期的調査、(公財)日本野鳥の会とのシマフクロウ調査、北山社有林(静岡県)での鳥類・植生調査

森林施業時の確認、配慮

<国内> 経営林分

伐採場所、時期の配慮

シマフクロウの生息地の保全と森林施業の両立

絶滅危惧種の有無を、都道府県のレッドリスト[※]に基づき確認

<海外> 地域の生物多様性に配慮した施業を実施

※ 絶滅のおそれのある野生動植物の種のリスト

<国内>

環境林分 … 伐採を制限し、現状の森林生態系を維持

水辺林 …… 生物多様性保全のため、伐採を禁止

保護区 …… シマフクロウの保護のため、伐採を禁止

<海外>

保護区・保護林[※] … 生物多様性保全のため、伐採を行わない

※ 植林対象外の地域。水辺林もこの地域に含めて管理している

特に配慮が必要な地域

第三者による持続的な森林経営の検証

森林認証制度

日本製紙(株)は国内外の全ての自社林で森林認証を取得。生物多様性に配慮した森林経営が実施されていることなどが認められている。

■ 本業を通じた取り組み

日本製紙グループは、紙などの製造工程においても、排水処理や温室効果ガスの排出抑制など生物多様性に与える影響の低減に努めています。また、持続可能な森林経営(→P.30)を行うなかで、自社林の生物多様性調査などを実施し、その保全に向けての取り組みを行っています。

事例 シマフクロウの生息地保全と事業の両立 ～(公財)日本野鳥の会との協働

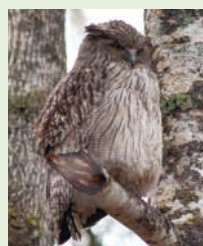
日本製紙(株)は日本野鳥の会と、2010年に野鳥保護に関する協定を締結し、北海道の社有林のうち約126ヘクタールをシマフクロウの保護区に指定しました。この保護区内には3つがいのシマフクロウの生息が確認されています。

また、2015年5月には北海道の社有林におけるシマフクロウの生息地の保全と事業の両立に関する覚書^{*}を締結しました。目的意識を共有した相互信頼のもと、

協働での調査をした上で保護区は設置せず、生息地・繁殖環境を保全しつつ木材生産を続ける施業の方法と時期の基準を明文化しています。さらに、2020年には北海道の社有林内に人工巣箱を複数設置しシマフクロウの繁殖を助ける活動を、日本野鳥の会と協働で行います。(→ P.85)

^{*} 国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞 2015」に入賞しました。

実施年度	調査内容
2010	シマフクロウのすみかとなり得る巨木の調査
2011	鳥類生息状況調査
2012	オジロシヤオオワシのねぐら調査、夜行性鳥類音声調査
2013	哺乳類、シマフクロウの生息状況調査
2014	シマフクロウの行動圏調査
2015ー	シマフクロウの生息状況調査、鳥類生息状況調査



提供: (公財)日本野鳥の会

■ シマフクロウ

全長70～80cm、体重3～4.5kg、翼を広げると180cmにもなる世界最大級のフクロウです。かつて日本では、北海道全域に1,000羽以上が生息していましたが、現在は道東部を中心に約70つがい、160羽が確認されるのみになりました。1971年に国の天然記念物に指定され、環境省のレッドリストで絶滅危惧IA類(CR)に指定されています。

事例 海外における生物多様性調査の実施 (ブラジル アムセル社、チリ ヴォルテラ社)

アムセル社(ブラジル)は、約30万ヘクタールに及ぶ社有地のうち約17万ヘクタールを保護区としています。ヴォルテラ社(チリ)は、約1万9千ヘクタールの社有地のうち約5千ヘクタールを保護林に設定してい

ます。

いずれの保護地域も多くの野生生物が生息しており、希少種・絶滅危惧種が存在する保護価値の高い森林も含まれています。

南米植林会社での取り組み

活動	内容
アムセル社	
定期的水質調査	植林地内に水質・水位モニタリング設備を設置し、定期的に検査。
植林地における野生生物の生息状況調査	パラ連邦大学、アマパ連邦大学など複数の研究機関と共同で、植林地における野生動物や魚類の生息状況を調査、モニタリングを実施。
保護区域内の植生モニタリング	アマパ州環境研究機構に委託し、保護区域内で植生のモニタリング調査を継続中。
ヴォルテラ社	
自社保護林内の動物調査	定点カメラ設置などで保護林内の動物調査を定期的を実施。ピューマや準絶滅危惧種(NT)指定のプーズーなど、数種の希少哺乳類・鳥類の生息を確認。2019年からコンセプシオン大学と希少動物の生態に関する共同研究プロジェクトを開始。
定期的河川調査	森林施業が生態系に与える影響を調べるため、自社植林地内の川の水質および生物多様性を定期的に調査

アムセル社での取り組み

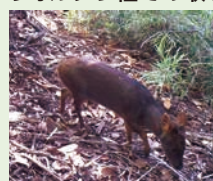


野生動物のモニタリング

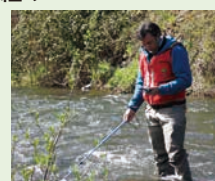


植生調査

ヴォルテラ社での取り組み



プーズー(準絶滅危惧種(NT))

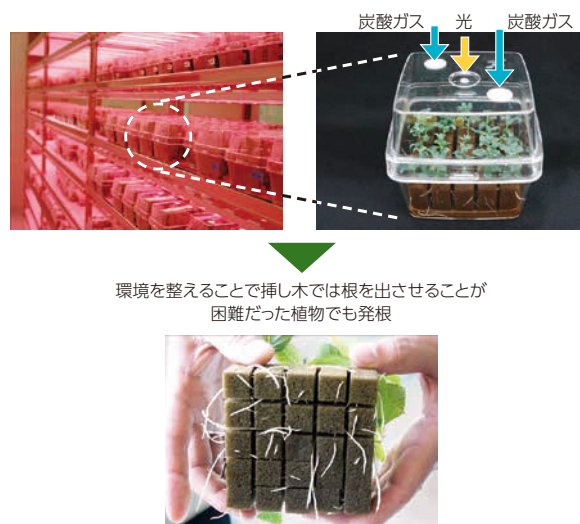


水質調査

自社の資源や技術を活かす取り組み

独自の発根技術の活用

日本製紙(株)は、自社独自の発根技術を、生物多様性の保全に通じる貴重な植物の保全に役立ててきました。当社が開発した技術は、光合成が旺盛になる環境を整え植物の発根を促進することで、従来の方法では根を出させることが困難だった植物でも苗木が生産できる技術です。この技術の活用により、絶滅危惧植物や日本各地に伝わる桜の名木など多くの植物の後継木が育っており、歴史や文化の保全にも貢献しています。



環境を整えることで挿し木では根を出させることが困難だった植物でも発根

事例 「シラネアオイを守る会」の活動支援

「シラネアオイを守る会」は、群馬県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているシラネアオイを保護するために、群馬県立尾瀬高等学校と群馬県利根郡片品村が中心となって2000年12月に発足しました。2014年4月にはこれまでの功績が認められ、『「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』を受賞しています。

日本製紙グループでは、同会の設立当初から、地元で日本製紙(株)の菅沼社有林を管理する日本製紙総

合開発(株)が運営面で支援し、シラネアオイの群生復元のために社有林の一部を開放しています。2002年からはグループ社員がボランティアとして、植栽や種子採取補助などの作業活動に参加しています。



尾瀬高校生とともに植栽地の手入れ

事例 西表島で外来植物の駆除活動 ～NPO法人西表島エコツーリズム協会との協働

日本製紙(株)は、2017年8月に林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署と協定を締結し、西表島の国有林約9ヘクタールで、西表島の自然や伝統文化を保全・継承するための活動を行っている「NPO法人西表島エコツーリズム協会」との協働により、外来植物の駆除などの森林保全活動を行っています。

西表島には日本最大規模のマングローブ林や亜熱帯性の広葉樹林などで構成される森林が広がり、国の特別天然記念物のイリオモテヤマネコ(絶滅危惧ⅠA類)をはじめとする貴重な野生動植物が生育・生息しています。しかし、多数の外来植物が広域に侵入していることが確認されています。

当社は、自社林の経営や(公財)日本野鳥の会と行っているシマフクロウ(絶滅危惧ⅠA類)保護活動などで

培った経験を活かし、西表島で地元の方々と一緒に外来種であるアメリカハマグルマ[※]の駆除活動を行うとともに、再生状況の調査を継続して実施しています。



アメリカハマグルマが繁殖



駆除したアメリカハマグルマ

[※] アメリカ大陸原産のキク科の植物で、法面などの緑化用として沖縄県内各地に導入された。繁殖力が旺盛で、生態系への影響が懸念されている。